

2019年10月12日に韓国のチェジュ島で行われた日韓のIVRの研究会に参加しました。

この時、台風の影響で成田便が欠航になったため日本から参加出来ない先生方もいらっしゃり、最終的に日本からの参加者は6人で、久留米からは田上先生と久木山が参加しました。

Jeju National University Hospital (とても大きくて綺麗な病院でした!) で12のcase presentationと1つの講演があり、会の趣旨は若手医師の英語でのcase presentationとdiscussionということで、私も症例報告を行いました。私にとって初めての英語での口演発表で不安でしたが、田上先生が私の発表の時に座長をされていたのと、参加している先生方が根気強く聞いてくださったおかげでなんとか無事に発表を終えることができました。

研究会の後は焼肉屋で懇親会。気さくな先生方ばかりで盛り上がり、楽しい会でした。

韓国ではある程度大きな病院でないとIVRできないことや、日本のように1つの病院で色々な手技が出来たり、疾患が見られるわけではなく、病院によって手技や疾患に特化しているようで(例えばHCCのTACEはこの病院、AVMは別の病院みたいな感じだと思います。)、日韓のIVR事情の違いを知りました。

そして韓国の先生方、男女関係なくみんなお酒が強いです! 韓国焼酎のビール割や焼酎を水のように飲んでいましたが、ほろ酔いくらいの感じです。確かに韓国のビールは味が薄いです。私も最初は躊躇しましたが、飲んでみたら想像よりアルコール感はなく結構美味しく飲みました。

日韓関係は政治的に色々問題がありますが、医学の分野でそれは関係ありません。

この会を通して、また到着した空港に迎えに来てくれたソウル大学のHwan先生から熱い歓迎を受けていた田上先生の姿を見てもそう思いました。

これからもこのような交流を続けてお互いに刺激になるような関係を続けられたら良いと思います。

私にとっても大きな刺激となり、参加して良かったと思えました。

発表の準備や発表の時も、忙しい中、指導し助けてくださった田上先生とこのような機会を与えてくださった教室の先生方に感謝いたします。

